

当社社長の「2004年 新年挨拶」について

本1月6日、当社社長の高萩光紀は、2004年を迎えるにあたり、社員に対して新年の挨拶を行いました。
要旨は次のとおりです。

1. 昨年は、イラク戦争の勃発とその後のテロの続発、新型肺炎SARSの流行等、暗く重苦しい話題に明け暮れた一年であった。石油業界においても、高圧ガス保安法違反や火災事故による製油所の操業停止等、大きな事件・事故が頻発した。一方、国内経済は、「デジタル景気」到来への期待感等もあり、ようやく長期的な低迷から脱しつつあるように感じられる。
2. こうした中、当社は、昨年4月に石油専業会社として新たにスタートしたが、早期に業界における確固たる地歩を築き、新日鉱グループの大黒柱としての役割を果たしていかなければならない。については、新年にあたり次のことを願う。
 1. 目標利益の確保
中間決算では、電力向けC重油の需要増加等により、ある程度の収益を確保できたが、足下では、寒波到来の遅れによる灯油販売の不振に加え、各油種とも原油価格が市況に反映されない状況に陥っている。相当の努力を要するが、一段のコスト削減を進め、目標利益を何としても達成するよう強く要請する。
 2. 中期経営計画の着実かつ迅速な実行
現在、16 - 18年度中期経営計画を策定しているところだが、収益目標を一段と引き上げ、より筋肉質の会社に育て上げることしたい。具体的には、自揮・中間留分の販売シェアが10%でも、石化事業を含めた利益シェアは15%以上を確保し、トップグループに比肩する恒常的な高収益体質を構築することとする。
これを達成するには、山積する課題を中期計画に沿って解決していかなければならず、各部門にはこれまで以上の努力をお願いする。また、その活動を促進する基盤整備の観点から、今春を目途に組織を再編したいと考えている。ポイントは、従来以上に顧客志向を強め、顧客にとってわかりやすい組織とすることである。
 3. コンプライアンスの徹底
昨年、石油・石油化学業界において、企業のコンプライアンス問題が厳しく糾弾される事態が相次いだ。当社としては、これらを他山の石として襟を正し、コンプライアンスの徹底に取り組む。私たちは、事業活動のあらゆる場面において、企業市民であるとともに、健全なる社会市民として、厳しく自らを律し、正々堂々と競争に臨み、勝ち残っていかなければならない。当社基本理念である「エナジーの創造」を社員一人ひとりが自らの行動規範として意識し、日常の業務遂行にあたるようお願いする。

以上